

彫刻家青木野枝さんをお迎えして 一兵庫県立美術館への屋外作品設置を終えて

2025年は阪神・淡路大震災から30年目にあたります。阪神・淡路大震災からの復興のシンボルとして安藤忠雄の設計により2002年に開館した当館は、震災後の節目節目に震災に関連する展示をおこなってきました。30年目を迎える2025年、震災をわすれないためのモニュメントとして、このたび公益財団法人伊藤文化財団のご寄贈により屋外に作品を設置する運びとなりました。作品を制作くださるのは、現在、日本の彫刻界、美術界で活躍され高い評価を得ている青木野枝さんです。鉄を素材にした作品で知られ、2002年当館の開館記念展への出品作家でもあり、各地の芸術祭や恒久的な屋外設置作品を多数制作されています。14回目となる「館長といっしょ!」では、作品設置とお披露目を終えられた青木野枝さんをお招きし、設置の構想に至る過程や、作品に込めた想いをお伺いします。



作品設置場所「風のデッキ」(美術館屋外 4階スペース)から南を望む



マケット (小型の模型) 撮影:和田芽衣

2025 **1.11** SAT 受付開始 13:30
14:00-15:30

兵庫県立美術館 KOBELCOミュージアムホール

神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 〒651-0073 (最寄駅: 阪神岩屋駅/JR灘駅/阪急王子公園駅)

事前申込制(申込はHPより 定員100名)/参加無料(要コレクション展観覧券)

講師

青木 野枝氏 あおきのえ 彫刻家 AOKI NOE

1958年、東京に生まれる。81年武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業、83年同大学大学院造形研究科修了。80年代初頭より鉄の溶接、溶断による作品を発表、素材の重厚さを思わせぬ伸びやかに空間に広がる作風で、彫刻に新たな息吹をもたらし、高い評価を得る。「青木野枝 ふりそぐものたち」(豊田市美術館・名古屋美術館、2012年)、「青木野枝 ふりそぐものたち」(長崎県美術館、19年)、「青木野枝 光の柱」(市原湖畔美術館、23年)を開催。当館も開館記念第2弾特別展「美術の力ー時代を拓く7作家」に招待した(2002年)。東京国立近代美術館、国立国際美術館をはじめパブリック・コレクション多数。《空の粒子/パッセージ》(日本生命淀屋橋ビル、日本生命保険相互会社東館/大阪)、《空の玉/寒霞溪》(小豆島・香川)など公共空間への設置も多い。14年の毎日芸術賞、17年の中原梯二郎賞など受賞多数。21年紫綬褒章受章。埼玉県飯能市在住。

聞き手

林 洋子 はやし ようこ 当館館長 HAYASHI YOKO

美術史研究者、キュレーター。パリ第一大学にて博士号取得。東京都現代美術館学芸員、京都造形芸術大学教員、文化庁芸術文化調査官を経て、2023年4月より現職。現代美術ならびに藤田嗣治関係の展覧会企画や著作多数。